

# 京林大だより

No.32



絵：卒業生 熊走君

## ドイツ研修2017

2年生が、5月28日(日)～6月4日(日)の5泊8日の日程でドイツ研修へ行きました。

今回の研修内容は、次の5項目です。

- ①製材所の見学（ドイツの川中事情とは？）
- ②森林官からのお話（営林署での人材育成）
- ③黒い森木工博物館の見学（ドイツ人と森との関係を歴史と文化から学ぶ）
- ④林業機械作業現場の見学（本場の機械と作業システム）
- ⑤ロッテンブルク林業大学訪問（ドイツの森林政策のお話、演習林にて現地講義）

ドイツの山並みは日本と似ているように感じました。それにしても、ドイツの森林・林業の世界は、木材の流通も、機械や丸太の大きさも

今年も行ってきました。



スケールが違います。

また、市民が林業を行なっている森に自由に入ってレクリエーション活動を行う、ドイツの森林はそんな存在でした。

学生たちも、よい刺激を受けて帰ってきました。



ドイツの木材自給率は、100%を超えています。こちらの製材所からは、86%が輸出されます。



積雪期の収入源として木工品が生産され、曲げわっぱもあり、日本に近いものを感じました。



ドイツの森林政策の講義を受け、演習林では広葉樹林の育成方法について教わりました。チェーンソーによる伐倒作業も見学しました。



右から2名は営林署で研修を受けている訓練生、右から3番目が指導者、4番目が森林官です。間伐と枝打ちの実習状況を見学しました。



4種類の機械の作業状況を見学しました。こちらは、タワーヤーダとプロセッサが合体した機械で「山間部のハーベスタ」と呼ばれていました。

## 林政ニュース

### 『国税版森林環境税創設!?』

皆さんのお近くで、所有者がわからなかったり、連絡が取れなかったりする森林はないでしょうか？

相続しても登記がそのままなどで所有者が分からなくなっている土地の総面積が、九州より広い約410万ヘクタールに達するとの推計結果を「所有者不明土地問題研究会」が最近公表しました。

こうした土地の増加は、森林の荒廃や土地取引の停滞などにつながるとして、研究会は年内に対策案を政府に提言するようです。

そこで、林野庁は、森林の整備には市町村の果たす役割が非常に大きくなってきており、所有者が出来ない森林整備を市町村が主体となって行えるよう、その財源として国税版の森林環境税を考えています。

現在自治体から意見を聞き、これらに対する対応策の検討を行なっているようで、平成30年度の創設が目指されています。



## 校長室より

### 林野庁長官、来校講義

校長 只木 良也

今年も、農林水産省林野庁長官の来校、学生諸君への講義がありました。6月16日、今井 敏 長官の講義題名は、「林業振興と地域活性化について」。これは現今の林野庁の重要な課題ですが、林大学生諸君向けに「林業の将来を担う皆さんへ」という副題が付いていました。

長官は、この問題を、昭和・平成期の森林・林業の情勢変遷を辿りながら、森林資源利用による地域経済の活性化、新たな木材需要の創出、国産材安定供給、それらの問題を担う人材育成、など多方面から解説してくださいました。

そして、日本は木の国だが、京都は特に森林と文化を学ぶ絶好の地、この地の林大で、

## 今月の授業参観

### 『林野庁長官特別講義』

6月16日（金）、今井敏特別講師（林野庁長官）を迎え、2学年合同特別講義を開催しました。

今、まさに利用期を迎えているわが国の人工林資源を放置するのではなく、大きな木材需要をつくり出し、拡大した需要に国産材を充て、山村を再び活性化させる「林業の成長産業化」のシナリオを学びました。

鉄とコンクリートの独壇場となっているビルを木材に置き換えるCLT（直交集成板）が、その切り札となるようです。

林大のカリキュラムは、実践的な資格習得に向けて「よく考えられているプログラム」と評価を戴きました。更に学生生活を楽しみ、木の文化を体感して視野を広げることが大切とアドバイスを戴きました。



長官を囲んで記念撮影

ふところ深く、人間性豊かな学生生活を楽しみながら、幅広い学習を心掛けて欲しいと、学生たちに話し掛けてくださいました。

林野庁長官といえば、わが国林野行政のトップです。

われわれ京都林大は、平成24年の創設以来毎年、長官にご来校頂いておりますが、それは、現在全国17校に及ぶ府県立の林業大学校等の中で唯一の例です。

直接、時の長官の話を聞き、質問・回答を通じて言葉を交わすチャンスを持てることは、嬉しいことです。

私は、国民森林会議と言う、林野行政に学術的な意味から注文をつけたり提言したりする団体の会長を、この3月まで致しておりました。

それを通じて長官とは顔なじみ、気さくな、話の通じる人だと知っておりますから、学生諸君には、長官との対話というめったにない機会を、有効に活かすよう呼びかけました。

意見交換まずまずでした。